

整序・語形変化 No.1(受け身・現在完了
か) **L1 標準**

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)	目標時間:15分	満点:100点(自己採点)
--------------------------	----------	---------------

文法の「型」で組み立てる練習。並べかえは、いきなり並べず「動詞のかたまり」から作るのがコツです。まちがえた問題は、解説の完成文を3回音読してから次のシートへ。

設問 場面に合う正しい英文を作ろう。並べかえの問題は、3番目と5番目に来るものの組み合わせを選ぶ。

問1(15点) 次の対話の()内の語を、最も適切な形にしたものはどれか。 A: This temple is beautiful. B: Yes. It(build)about three hundred years ago. ア builds イ was built ウ is building エ built	()
問2(15点) 次の対話の()内の語を、最も適切な形にしたものはどれか。 A: You and Ken are good friends, right? B: Yes. I(know)him since we were five. ア know イ knew ウ have known エ am knowing	()
問3(15点) 次の日本文に合うように[]内の語(句)を並べかえると、3番目と5番目に来るものの組み合わせはどれか。 「日曜の朝は自分の部屋をそうじするつもりです。」 I'm [going / to / clean / my / room] on Sunday morning. ア 3番目:clean / 5番目:room イ 3番目:to / 5番目:my ウ 3番目:my / 5番目:clean エ 3番目:room / 5番目:to	()
問4(15点) 次の日本文に合うように[]内の語(句)を並べかえると、3番目と5番目に来るものの組み合わせはどれか。 「英語を話すことは、私には難しい。」 It is [difficult / for / me / to / speak] English. ア 3番目:to / 5番目:me イ 3番目:for / 5番目:to ウ 3番目:speak / 5番目:me エ 3番目:me / 5番目:speak	()
問5(20点) 次の日本文に合うように[]内の語(句)を並べかえると、3番目と5番目に来るものの組み合わせはどれか。 「今までに沖縄へ行ったことがありますか。」 [Have / you / ever / been / to] Okinawa? ア 3番目:been / 5番目:ever	()

イ 3番目:ever / 5番目:to ウ 3番目:you / 5番目:been エ 3番目:to / 5番目:ever	
--	--

問6(20点) 次の日本文に合うように[]内の語(句)を並べかえるとき、3番目と5番目に来るものの組み合わせはどれか。 「この本はあの本よりおもしろい。」 This book is [more / interesting / than / that / one]. ア 3番目:interesting / 5番目:that イ 3番目:that / 5番目:than ウ 3番目:than / 5番目:one エ 3番目:more / 5番目:that	()
---	-----

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
イ	ウ	ア	エ	イ	ウ	/100

問1 正解 **イ**(15点) | 主語と動詞の関係が「する側」か「される側」かを見る

根拠 主語は It=寺。寺は「建てる」のではなく「建てられる」側→受け身<be動詞+過去分詞>。three hundred years ago(300年前)だから be動詞は過去形 was。**It was built about three hundred years ago.**(約300年前に建てられた。)

誤答の切り方

ア	builds だと「寺が(何かを)建てる」ことになり、主語との関係が逆。
イ	was built=<be+過去分詞>の受け身+過去。agoとも一致。
ウ	is building は「今建てている最中」。300年前の話と矛盾。
エ	built だけでは「寺が建てた」という能動の過去になってしまう。

 この形式のコツ 語形変化の第一歩は「主語はする側？される側？」の判定。される側なら<be+過去分詞>、そのあと時(ago / now / since)で be動詞の形を決める——2段階で確実に。

問2 正解 **ウ**(15点) | since / for を見たら現在完了<have+過去分詞>

根拠 since we were five(5歳のときから)=過去から今まで続く期間の目印。「ずっと知っている」は現在完了<have+過去分詞>。**I have known him since we were five.**

誤答の切り方

ア	know(現在形)だけでは「5歳から今まで」の幅を表せない。
イ	knew(過去形)だと「昔は知っていた(今は?)」になり、since と合わない。
ウ	have known=過去から現在までの継続。since とセットの形。
エ	know は状態を表す動詞なので、ふつう進行形にしない。

 この形式のコツ since ~ / for ~ は現在完了の呼び出しボタン。見つけた瞬間に<have/has+過去分詞>の形を確定してから、残りを考える——目印の語が形を決めてくれる。

問3 正解 ア(15点) | 整序は「動詞のかたまり」から組む

根拠 完成文=I'm going to clean my room on Sunday morning. 並び=①going ②to ③clean ④my ⑤room。まず be going to+動詞の原形(going to clean)のかたまりを作り、残りの my room を後ろに置くだけ。

誤答の切り方

ア	going to clean my room——be going to の型どおり。3番目 clean・5番目 room。
イ	3番目が to になるのは going の直後に別の語をはさんだ並び。be going to が切れてしまう。
ウ	my が3番目だと going my... となり、型がこわれる。
エ	room が3番目では clean する相手が先に来てしまう(動詞→目的語の順が逆)。

🔑 この形式のコツ 並べかえは左から1語ずつ置かない。①文の型(be going to/want to など)のかたまりを先に作る ②残りの名詞を後ろへ——かたまり方式なら迷いが消える。

問4 正解 エ(15点) | It is ~ for 人 to …(形式主語)は型で一発

根拠 完成文=It is difficult for me to speak English. 並び=①difficult ②for ③me ④to ⑤speak。「It is+形容詞+for 人+to 動詞」の型に流しこむだけ。

誤答の切り方

ア	to が3番目だと for 人 より先に to 動詞が来てしまい、型がくずれる。
イ	for が3番目なのは difficult の前に別の語を置いた並び。It is のすぐあとは形容詞。
ウ	speak が3番目では「to のない不定詞」になってしまう。
エ	difficult → for me → to speak。型どおりで、3番目 me・5番目 speak。

🔑 この形式のコツ It is ~ for … to … は入試整序の最頻出。「イット・イズ・形容詞・フォー人・トゥー動詞」と口で言えるまで型ごと暗唱しておくと、並べる前に答えが見える。

問5 正解 **イ**(20点) | 経験の疑問文は Have you ever been to 〜? を丸ごと型で

根拠 完成文=Have you ever been to Okinawa? 並び=①Have ②you ③ever ④been ⑤to。「〜へ行ったことがある」は have been to(have gone to ではない)。ever は you と been の間。

誤答の切り方

ア	been が3番目だと ever の置き場がなくなる(Have you been ever とは言わない)。
イ	Have you ever been to——経験をたずねる決まり文句そのまま。
ウ	you が3番目になるのは Have が文中に沈んだ並び。疑問文は Have が先頭。
エ	to が3番目では been とセットになれない。been to で「行ったことがある」。

 この形式のコツ Have you ever been to 〜? は5語でワンセットの「経験の型」。ever の定位置(主語と過去分詞の間)だけ意識すれば、この型の整序は10秒で終わる。

問6 正解 **ウ**(20点) | 長い形容詞の比較は more 〜 than のサンドイッチ

根拠 完成文=This book is more interesting than that one. 並び=①more ②interesting ③than ④that ⑤one。interesting は長い形容詞なので more をつけ、比較の相手を than のあとへ。one=book のくり返しを避ける代名詞。

誤答の切り方

ア	interesting が3番目だと more と離れてしまう.more interesting はセット。
イ	that が3番目では比較の相手が than より先に来ってしまう。
ウ	more interesting → than → that one。型どおりで3番目 than・5番目 one。
エ	more が3番目になるのは is のあとに別の語をはさんだ並び。

 この形式のコツ 比較の整序は「<more+形容詞>のかたまり」→「than」→「相手」の3ブロックで組む。one が語群にあれば「前に出た名詞の身代わり」——最後に置くのが定番。

今日の文法メモ——まちがえた問題の型をここで確認

問1	受け身<be+過去分詞>——主語が「される側」なら迷わずこの型
問2	現在完了<have+過去分詞>——since / for が呼び出しボタン
問3	be going to+動詞の原形——「かたまり」から組む
問4	It is 〜 for 人 to …——形式主語の型は暗唱しておく
問5	Have you ever been to 〜?——経験の決まり文句
問6	more 〜 than …——長い形容詞の比較はサンドイッチ

もう一段のぼる 整序の「かたまり方式」は英作文の下書きにも直結する。No.2では動名詞・接続詞・There is 構文——「文の骨組みが2つある文」の整序へ進む。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・帯学習に最適(1枚15分+自己採点)。まちがえた問題は完成文を3回音読→翌日にもう一度同じ問題、が定着の最短ルート。配点は問1〜4各15点・問5〜6各20点。